

「一で暮らしたい！」

みんなでつくる地域包括ケアシステム

地域包括支援課 地域包括支援係 ☎ 0824-73-1279

「住み慣れた我が家でできるだけ長く暮らしたい」という素朴な願いは、多くの人が思うことです。

地域包括ケアシステムとは、「医療」「介護」「生活支援・介護予防」のそれぞれの分野が連携協働して、その人ごとの暮らしを支援していくことです。医療ニーズの高い人、介護ニーズの高い

人、医療や介護ニーズはさほどでもないが生活支援・介護予防ニーズの高い人など、一人一人の困り事は、その人ごとの身体状況や家族構成、住環境などで違います。「地域包括ケアシステム」とは、その人ごとの多様な支援の仕組みが形成されている姿のことをいいます。

おじいちゃんの困り事



〈庄原太郎さん(仮名)85歳〉

ゴミ集積場所が遠くて持つて行けない

常会の務めが苦になってきた

送つてこられた文書の意味が分かりづらい

隣の家まで回覧板が持つて行けない

ご飯を作るのが面倒…

通院できないとき往診があつたら…

家屋内を動くのに何かつかまる物があつたら…

人と話す機会が減ってきた

物忘れ(認知症?)が進んできた

車の運転をやめたので買い物が不便



一人暮らし高齢者の “太郎おじいちゃん”

太郎おじいちゃんの困りごとのいくつかは、誰にでも起こり得ることです。

公的制度(介護保険サービス、福祉サービスなど)で対応できるものもありますが、制度では対応できないこともあります。太郎おじいちゃんの困り事のうち、例えば、「人と話す機会が減った」「隣が遠くて回覧板が持つていけない」「常会の務めが難しくなつてきた」「ゴミを集積所まで持つていけない」などの困り事は、お互いの気に掛け合いやちょっととした支え合いで、暮らしやすさはずいぶん違います。

また、近所の人たちだけではなく、常会や自治会、自治振興区など地域全体で支え合う仕組みがあれば、太郎おじいちゃんも近所の人たちも安心です。

地域づくりのために 支え合いの



高自治振興区「ありがとうの会(協議体)」のみなさん

自治会単位で見守り合いの仕組みを進めよう！



高自治振興区「ありがとうの会(協議体)」のみなさん

ご近所つながりが大切、「お隣さん運動」進めよう！



東城自治振興区「自治会部会(協議体)」のみなさん

今、庄原市では、自治振興区域を基本上に市内を20のエリアに分け、自治振興区の皆さんや地域にある団体、民間事業所などと一緒に、その地域なりの支え合いの仕組みづくりを進めています。そのサポート役である「生活支援コーディネーター」を庄原市社会福祉協議会に委託し、地域と一緒に取り組みを進めているところです。

平成29年10月現在、20カ所のうち16カ所で支え合いの仕組みを中心とした話し合いの場(協議体)が設けられ、た話題の場(協議体)が設けられ、「自分の地域ではどんなことができるだろう」という具体的な活動づくりが進められています。残りの4カ所も、自分の地域に一番合ったやり方に向けて協議を重ねています。